

# 知覚動考

寒河江市立南部小学校  
校長室だより  
校長 白田 敏幸

「誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり」

## 「犬は比較しない、人は比較する」… 子供たちの“その子らしさ”を育むために

私は、7歳になるトイプードルと一緒に暮らしている。名前は、「ゴン太」。2人の子供が独立しているので、我が子のように可愛がっている。（むしろ、三人目の我が子だと思っている。）出かけるときには、寂しそうな眼で見送ってくれ、帰宅すれば、しっぽが取れるんじゃないかぐらいに大喜びで迎えてくれる。そんな姿を見て、ふと「犬は他と比較しない」という言葉を思い出した。



犬は、自分の耳が他の犬より大きいかどうかを気にしない。走る速さも、吠える声の大きさも、他と比べて優れているかどうかを気にすることはない。ただ、自分の感覚に正直に、今を生きている。

一方、人間はどうだろうか。私たちは、知らず知らずのうちに「比較」の世界に生きている。テストの点数、運動の記録、話す速さ、絵の上手さ——子供たちは日々、何かと誰かを比べながら自分の価値を測ろうとしている。

もちろん、比較は悪いことばかりではない。目標をもち、努力する原動力になることもあるし、社会の中で自分の立ち位置を知る手がかりにもなる。しかし、過度な比較は、子供たちの心に「自分は劣っている」「どうせできない」といった否定的な感情を生み出すことがあるのではないだろうか。

教育の場において、私たちが大切にしたいのは、「その子らしさ」である。誰かと比べて優れているかどうかではなく、その子が昨日の自分より少しでも前に進んだかどうか。小さな一歩を認め、励まし、共に喜ぶことが、教育の本質だととらえている。

子供たちは、それぞれ違った個性と可能性をもっている。ある子は言葉で表現するのが得意で、ある子は静かに考える力に長けている。ある子は運動が好きで、ある子は絵を描くことに夢中。その違いこそが、子供たちの魅力であり未来への希望ではないだろうか。

私たち大人がまず、比較から少し距離を置いてみることに。それが、子供たちにとっての安心と信頼の土台になるのではないかなと思う。そして、子供たちが「自分は自分でいいんだ」と思えるような環境を、家庭と学校が一緒になって築いていけたらと願っている。

犬のように、ただ「今の自分」を受け入れ、楽しむことができれば——子供たちの心はもっと自由になり、学びはもっと豊かになるはずだ。

これからも、子供たち一人ひとりの“その子らしさ”に目を向けながら、共に歩んでまいりましょう。